

かわさきTMO通信

<毎月おじゃまします・かわさきタウンマネージメント機関です>

2011・4・5月号 No.33

- 今年度の事業の予定
- 川崎駅前広場再整備の影響
- 事務局が商工会議所になりました

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2011年5月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-540-3904
 FAX：044-540-3900
 E-mail：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇今年度の事業の予定

かわさきTMOの活動は、現在年3回開催される総会と毎月開催される役員会、さらに5つの部会の活動を中心に進めています。具体的な事業は、5つの部会で進められており、23年度は、以下の活動を行います。

第一に「商店街協定策定部会」において作成された「協定素案」は先の総会で報告されました。素案は、主に川崎駅周辺地区の商店街がよりよい環境をつくっていくために、自主的に守っていく事柄（はみ出し商品展示、不法勧誘、看板等景観、自転車など）をまとめています。今後各商店街における検討を経て、商店街協定として公表発表していく予定です。第二に「回遊性向上部会」においては、川崎駅東西の回遊性創造、駅から富士見公園までの回遊性創造を、歩行者空間をつくることで実現する方策を検討しています。かわさきバスクーも銀座街、砂子通りで定着し、関心が高まってきております。また昨年度のシンポジウムとワークショップを踏まえて、本年度は回遊性をつくる仕掛けを用意する予定です。東西回遊バス（ワンコインバス）の検討も継続して行います。第

三に「イベント部会」においては、イベントの効果を図る上での評価基準を検討し、さらにさまざまなイベントを連携するイベントサミットを開催し、各イベントの活性化を図っております。23年度も連携による効果をつくっていきます。第四に「地域共同販促部会」において、商店街と大型店とが参加協同して、街全体が一つのテーマで力を合わせる事業を展開します。昨年度は東口駅前広場再整備というテーマで、商店街、大型店のさまざまなイベントやセールを協同PRしました。23年度も共通のテーマのもとに街全体のアピールと集客を図る予定です。第五に「提言部会」においては、これまで富士見公園、自転車交通、競輪場、都市景観に関するパブリックコメントを行ってきました。23年度は、パブコメとともに、TMO独自の提言を予定しています。その一つとして、街の国際化を推進する提言を行う予定です。

三月十一日の東日本大震災を受けて、我が国のすべてが「新しい状況」に直面し、大きな変化に対応していく心構えと、知恵と勇気が求められることとなりました。それは、大きく

国のあり方から、一人ひとりの個人の生き方までかわわってきています。農産物や水産物をどのように生産し消費するのか。エネルギーをどのようにつくり、どのように使うのか。どこに住むことが安全なのか。人と人が助け合うことの力の再発見。公共とは何か。などが身の回りに重なり溢れています。その意味で、かわさきTMOの事業も、事業それぞれの意味が重みを持つてくることとなります。よって、本年度の事業も単なる昨年度の継続というだけではなくなるでしょう。かわさきTMOは常にどの事業でも「協同」という考えを大事にしてきました。一人ひとりばらばらに行動するのはなく、いろいろな考えを出し合い、力を合わせて行動することを目指してきました。5つの部会の各事業は、「新しい状況」をしっかりと見つつ、今求められている社会に街をつくることに応えていく一年となります。そこでは、「協同」がますます重要となつてきます。各部会の活動は、このTMO通信を通して今後とも詳細にお伝えしてまいります。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇川崎駅東口前広場再整備の影響

川崎駅東口駅前広場の再整備が去る三月二十六日に完成しました。新しい広場の特徴は、大きく二つあり、第一は平面横断化の実現、第二は広場のバリアフリー化です。特に、平面横断化は、これまでの川崎駅東口の人の流れを大きく変える構造的意味を持っています。東口正面へのアクセスがこれまで地下街のアゼリアを通って行くしかなかったが、地上平面で通行が可能となったことです。特に銀柳街、仲見世通り、たちばな通りへの駅東口からのアクセスは大きく改善されました。また、バス乗り場も地上から行けるために、大変わかりやすくなり評判もよいようです。



毎年三月に川崎駅周辺の交通量調査

市を市の委託を受けて行っており、本年の調査結果ができましたので、概要をみます。平日（本年は三月三日調査）の交通量は、各地点とも増加しており、中でも、アゼリア中央通路（駅から降りた正面）は44100人と平成十五年からの調査で最も高い交通量となり、銀柳街も28000人と二番目に高い交通量となっています。また、東口駅前全体の断面交通量は177400人と4年ぶりに高い交通量となっています。一方、西口駅前断面交通量（中央通路西口断面）は、87000人でこれも平成18年の調査以来の最高値となっています。休日（三月六日調査）は、平日よりも交通量が多くなるのですが、東口の断面交通量は196000人と一割増し、西口の断面交通量をみると、平日と同じ調査地点で132800人と五割増しの交通量となっています。ここに川崎駅地区の特徴をみる事ができます。調査の詳細については、川崎市商業観光課または、かわさきTMO事務局にお問い合わせください。

（タウンマネージャー 笹原克）

◇事務局が商工会議所になりました

今年度より、かわさきTMOの事務局を川崎商工会議所がひきつぐことになりました。設立当初より事務局を運営してこられた、川崎市産業振興財団さんのように円滑な運営をするには難しいとは思いますが、皆様方のご指導・ご協力をいただきまして、肅々と進めていきたいと思えます。

かわさきTMOでは、川崎市周辺商店街・大型店を含めた事業者が中心になり地域の街づくりと賑わいづくりを進めております。

TMOの運営は、総会を基本に役員会・各部会の活動が中心であり、事務局としては、開催案内をはじめとする連絡事務処理の適正化を図り、役員・会員の皆様方の事業運営の円滑な推進をフォローアップすることが大切と考えております。

事務局は、川崎商工会議所中小企業振興部が主幹部署として酒井・吉田・神谷が担当してまいります。三人とも川崎出身者であり、地域に対する愛着は大きいものがあります。

特に、幸区出身の神谷には川崎一の繁華街である、駅東口のミスタウン・銀柳街一帯・稲毛神社周辺は、地元の

遊び場であり、映画鑑賞や買い物・飲食等のほか、山王祭での御輿渡御では担ぎ手としての思い入れがござい

ます。子供のころは、表川崎に遊びに行くのが楽しみでした。繁華街の喧騒と猥雑さが絡み合った独特の雰囲気があり、銀座や新宿・渋谷・横浜とも違った川崎独特の雰囲気がありました。街並みがきれいに整備され装いが変わり、昔の趣が失われてきていますが、地区地区を巡ると昔のたたずまいが散見されています。

こうした地区の街づくりに携われることは大変やりがいのあることと考えております。

（かわさきTMO事務局 神谷）

